

## 団長の独り言

12月24日(日)昼夜稽古が始まる。

昨日から昼夜稽古が始まった。

昼夜稽古とは、13時から21時30分までビッシリ行う稽古の事で、劇団ふあんハウスでは、本番の約1か月前から昼夜稽古を行っている。

せっかく昼夜連続稽古を行うのだから、稽古場も極力実寸の取れる広い部屋を押さえて、追い込み体制をとることにしているの、役者陣はいつも以上に気合が入っている感じ。

昨晚、舞台美術の三井さんから正式な図面が届いたので、まずはその図面に従い、間口、奥行き、役者が出入りするところ等をメジャーで計り、紐や養生テープ等を用いて印を付けていくと、舞台セット全体の寸法が見えてきたので、そこに本番でも使用する予定のテーブルや丸椅子、居酒屋門出のカウンターに見立てた、長テーブル等を図面どおりに設置すると、思っていたよりも広い！

この劇場は、通常のホール劇場と違って、上手・下手の袖にプロセミアム用の巨大な壁(プロセ)が収納されているのだが、これが意外とやかかいで、収納したままの状態だとプロセが舞台袖を塞

いでしまい、袖幕から役者の登場・退場(出ハケ)が出来なくなってしまう。

じゃ〜って事でプロセを舞台面に出すと、今度は間口がかなり狭くなってしまし、いやはや：：なんともやかかいなものがあつた。

一応三井さんは「プロセあり、プロセなし」の両方の図面を用意してくれたけれど、袖幕からの出入りが出来ずとも舞台全体が広く使える「プロセなし」の方がいいと思ったし、この日、稽古場にお越しになったTさんに「観客目線」からの意見を伺っても、「プロセなし」がいいとの事だったので、「プロセなし」バージョンで行くことにした。

ただ、そうなる：：これまでの稽古で動いていた舞台袖からの出ハケが出来なくなるわけで、役者の動きも変更しなきゃいけない。

そこで稽古に入る前、まずは役者の出ハケの修正を場面を追って行うが、出ハケの位置が変われば、動きも変わるし当然芝居も変わる。

最初は、みんなちよいと戸惑っていたけれど、舞台セット内にある出入口から直接役者が登場したり退場したりする事により、動きがより立体的になり、面白みが増したのは嬉しい誤算。

その舞台セット内にある出入口は、時に老人ホーム、時に居酒屋門出の出入

口にもなるので、照明さんにメリハリを付けてもらい、役者がそれなりの芝居をすれば、いい感じになるはず。

そんな事を思いつつ、昼夜稽古をスタートさせる。

これまで夜のみの約3時間の稽古だったのが、昼夜連続で、約8時間もの稽古が出来るので、追い込みを行うには大変ありがたい。

「後回し」にしてきた気になる箇所も徹底的にダメを出しつつ、皆さんに演じてもらう。

いまだにセリフを完璧に覚えきれず、それが余計な間をつくり、その余計な間が伝染して、随分と間延びした「なんじゃこりゃ？」って場面があったのは残念だったけれど、ラストシーンに向かうにつれ、自分で書いた脚本なのに感動してしまい、演出席にいるにもかかわらず、うるつとする場面もあった。

翌日曜日、私は仕事のため夕方からの合流となったが、皆さんはこの日も昼間からの稽古。

舞台転換の打ち合わせ、出ハケの確認等を念入りに行い、その後、前半を通したとのこと。

かなり充実した稽古を行ったとの事なので、1時間の休憩後、もう一度前半を通してもらうと：：

うーん。

疲れたのかなあ？どうしたのかなあ？

集中力の欠いた芝居が連鎖していた。

その前半部分の通しを終えてたあと、特にテンポの悪かったシーンを抜いて、あーでもない、こーでもないやってみたが、モヤモヤは晴れない。

そこで役者本人が創ろうとしている重たい芝居を捨て、カラッと明るく軽く演じてもらう。

ダメを出された本人は、なぜにダメをだされるのか理解はするものの、これまで自分が「よし」と思っていたものをがらりと変更させられたとあって、なんだか浮かない顔をしていたが、ダメ出しのとおり芝居を行うと、すごい！

あとは、共演者とのコミュニケーション不足だと思っけれど、お互いの芝居の息が合っていないのも気になったので、ここはね、充分に詰めて貰うって事にして、この日の稽古を終えたが、気が付けば本番まで稽古も数回。

年末30日にも稽古を行えば、いよいよ1月。いい年を迎えるためにも、最高の本番を迎えるためにも、ガムシヤラに行きましようね！